

令和元年度

越谷市環境白書

越谷市環境管理計画年次報告書



大相模調節池 生きもの調査

はじめに

越谷市は、多くの河川や用水路が流れ、古くから自然に恵まれていたことから、「水郷こしがや」と呼ばれてきました。江戸時代には日光道中第三の宿場町としてにぎわいをみせ、今もその名残をとどめるなど、豊かな自然と歴史が融合したまちです。

この環境を未来に残すため、平成23年(2011年)12月に「越谷市環境管理計画」を改定し、本市の望ましい環境像を「未来へつなげよう、地球と人にやさしいまち こしがや」といたしました。現在、市では本計画に基づき、市民・事業者の皆様との協働により、望ましい環境像の実現に向け、生活環境、温暖化防止、資源循環、緑、生物多様性など多くの分野で取り組みを進めております。

さて、市では平成30年度から、太陽光発電設備に加えて、蓄電池の設置に対しても補助を開始いたしました。これは、再生可能エネルギーの固定価格買取制度が満了することや、買取価格が低下することを見据え、余剰電力を売電するだけでなく、蓄電するという選択肢を増やすことで、太陽光発電のさらなる有効活用を図るものです。

「越谷市環境白書」では、このような環境分野全般の取り組みについて、平成30年度の実績をまとめるとともに、越谷市環境管理計画の年次報告書として、本市の環境施策の進捗状況を掲載しております。

本書が、多くの皆様に広く活用され、身近な環境に対してさらに関心を深めていただくとともに、環境に配慮した行動を実践する一助となれば幸いです。

令和元年10月

越谷市長 高橋 努

